

### 消防署には次々と電話が

当日は消防にいまして、本部で二日間、十二、十三日に詰めたような形になります。台風が来る、ということでも心構えをしていたのですけれども、消防団、消防署、一体になって活動しないといけないということで、消防団指揮本部を立ち上げて待機をさせ、すぐに活動ができる状態にする。消防署は、なるべく人命にかかわるような大きい災害に対応させなくてはいけないので、水が出ちゃった、土嚢が欲しい、っていう状態のところは、消防団に任せようということで、体制を整えました。最初のうちはやはり消防署に電話が入って、土嚢がほしいとか、水があふれちゃったよということ、消防団をそこに向かわせる作業を行っていったんですが、そのうち、八時九時になってくると消防署の方がいっぱいいっぱい、そっちでもこっちでもというような状態で、それも出てはいったけれども、道路が冠水して、この先進めないとか、たどり着けないとか、というような状況も多々あったわけですね。水があふれちゃって先に進めない、どうしようもない。じゃあこっちに回れ、あつちに回れ、というように時間で時間ばかりかかるような状況もあったのかな、と考えています。

### 避難することも大変な状況

その中で、私に一本の電話が入ったんです。女房からで、私の家は川の近くではあるんですが、かなり低いところを流れている川なので水害はあまり気にしていなかったんですけど、当日、八時九時くらいになってきたときに、かなり上がったみたいなんです。結果的に水が浸かることはなかったんですけど、女房が、逃げた方がいいのかな、っていう話をしまして。私は仕事の方がバタバタしてる状態だったので、危なかったら逃げな、避難所の方は開いているんでそこに逃げればいいよ、っていう話をして、ちよつと突き放した状態なんですけど。うちは年寄りがいたんで、年寄りはやっぱ動きたくないですね。水が浸かって、逃げなくちゃしようがない時には動くんですけど、まだそういう状態でもない。しかも外は雨がザーザー、風がビュービュー吹いている、というような状態で、これもまた大変だったんですよ、って後で聞きましたけれども。

### 物の備えと心の備え

やはり備える。何かに備える。自分で危ないことを危ないと感じられる知識を身に着けるっていうことが大事なかなって。身につけたら何でしょうか、どうでしょうか、っていう備えをしています。

く。心の備え。水を用意するとか食料を用意するとか、物の備えも大事ですけども、まず災害に対して心の備えをしておく。こういう時にはこういう風にしよう、というようなこと。それが一番大事なのかな、と思っています。